シラバス　　作成日　2021.04.01

科目名	IT技術基礎			担当教員名	木村宗裕・若林 茂典			□ 実務経験
学科名	医療情報	学科	学年	1	単位数(時間数)	6単位(100時間)		
実施時期	4 月 ～ 7 月	授業形態	講義	○	演習	△	実習		実技		○は主、△は併用
教科書及び参考書	「ITワールド」(インフォテックサーブ) 「IT戦略とマネジメント」(インフォテックサーブ)							

授業の概要とねらい

コンピュータを使える技術者を育成する上で、コンピュータやコンピュータシステムにかかわる基礎的な技術知識について、浅く、広く学習する。論理演算や2進数などの情報科学、CPUやメモリなどのハードウェア、動作の中心となるOS、データを取りまとめるデータベース、インターネットの基盤になっているネットワーク、そして、安全性を確保するためのセキュリティ技術を学習する。また、復習問題を解く中で記憶の定着化を図る。

到達目標

基礎的な用語を理解し、簡単に説明できるようにする。また、最終的には基本情報技術者試験の午前免除修了試験に合格すること。

授業計画

授業項目・内容	時間数(コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)
導入(コンピュータシステムとは、コンピュータの歴史)、アナログとデジタル	3	教科書のページ番号を言う。
補助単位と2進数、10進数、16進数、2の補数	6	パワーポイント用の資料を配布し、それを基にパワーポイントを使って説明をする。
2のべき乗、5大装置、メモリについて	3	
文字コード、CPU、CPUの高速化	4	講義は20分以内に抑える。
論理回路、論理演算	3	講義後は必ず復習課題を実施する。わからないところは、教科書を参考にして課題を解くことを促す。時間を区切る。終わらなかった部分は時間外で実施し、提出を促す。正解は後日掲示する。提出された課題も返却する。
磁気ディスク、補助記憶装置	3	
入力装置、出力装置、インタフェース、演習問題	6	
システム構成、信頼性	3	
性能、MIPS	3	
ヒューマンインタフェース、GUI、コード設計	3	演習は週1回程度実施するが、誤った箇所については、やり直しをして提出する。これも、復習課題の1つとする。
AD変換、CG技術	2	
OSについて、タスク制御	3	
記憶管理、コンパイラ、インタプリタ、リンカ	5	
Java、ファイル管理、ファイル編成、階層化ディレクトリ、演習問題	4	
データベース概要	3	
データベース設計、キーとER図	4	
DBMSの機能	4	
SQL、副問い合わせ	4	
伝送制御、LAN	4	
OSI、TCP/IP	4	
IPアドレス、DNS、メール	4	
暗号化、認証	4	
不正アクセスと不正行為	3	
セキュリティ技術、演習問題	5	
開発技術	2	
社会システム、マネジメント	1	
経営戦略手法、QC7つ道具、著作権	1	
模試1	2	実施時間75分・自己採点,解説60分で行う。 やり直しをレポートとして提出する。 また、さらに模試2回分を自宅学習として実施する。 結果及びやり直しをレポートとして提出する。
解説	1	
模試2	2	
解説	1	
合　計	100	

時間外学習について

教科書において事前に予習をすること。また、配布された復習課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し、確認をもらうこと。復習課題は毎日実施。また、模擬試験2回分は、自己学習として採点やり直しを提出する。

成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について

模試2回の平均を25%、情報処理技術者能力認定試験2級1部の結果を75%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が 90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や未提出の課題があるものはD(不可)とする。

その他(科目と実務経験との関連性について)

シラバス　　作成日　2021.03.31

科目名	IT技術基礎演習			担当教員名	木村　宗裕・馬場　清			□ 実務経験
学科名	医療情報	学科	学年	1	単位数(時間数)	2単位(40時間)		
実施時期	8 月 ～ 10 月	授業形態	講義	△	演習	○	実習	実技	○は主、△は併用
教科書及び参考書	「ITワールド」(インフォテックサーブ) 「IT戦略とマネジメント」(インフォテックサーブ)							

授業の概要とねらい

IT技術基礎で学んだ知識の定着を図るために演習を行う。
前半はサーティファイ情報処理技術者能力認定試験2級2部のレベルの問題に取り組む。
後半は基本情報技術者試験のレベルの問題で特に、セキュリティ技術とデータベース技術について問題演習を繰り返す。

到達目標

前半はサーティファイ情報処理技術者能力認定試験2級2部に合格すること。
後半は基本情報技術者試験のセキュリティとデータベース分野の問題に対して7割以上の正解ができるようにすること。

授業計画

授業項目・内容	時間数(コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)
演習1	6	セキュリティ・データベースについて演習解説を行いながらレベルアップを図る
演習2　2級2部演習	3	サーティファイ情報処理技術者能力認定試験の対策として模擬試験を繰り返す。 90分演習、自己採点、50分解説　を1セットとして繰り返す。 誤った部分をやり直しをして、レポートとして提出する。
演習3　2級2部演習	3	
演習4　2級2部演習	3	
演習5　2級2部演習	3	
演習6　2級2部演習	3	
演習7　2級2部演習	3	
演習8	2	基本情報技術者試験の過去問題を使って、演習を実施する。 過去の出題問題を解かせて、ポイントを解説する。
演習9	2	
演習10	2	
演習11	2	
演習12	2	
演習13	2	
演習14	2	
演習15	2	
合　計	40	

時間外学習について

演習で使った問題の復習をすること。誤った部分についてはレポートとして提出すること。

成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について

サーティファイ情報処理技術者能力認定試験2級2部のセキュリティ及びデータベース分野の平均結果を40%、基本情報技術者試験の模擬試験及び本試験のセキュリティ及びデータベース分野の平均結果を60%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が 90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や未提出の課題があるものはD(不可)とする。

その他(科目と実務経験との関連性について)

シラバス　　作成日　2021.04.01

科目名	基本情報技術者試験対策講座		担当教員名	木村　宗裕・若林　茂典	□ 実務経験
学科名	医療情報	学科	学年	1	単位数(時間数)	3単位(50時間)
実施時期	7 月 ～ 7 月	授業形態	講義	○	演習	△	実習		実技		○は主、△は併用
教科書及び参考書	「ITワールド」(インフォテックサーブ) 「IT戦略とマネジメント」(インフォテックサーブ)										

授業の概要とねらい

基本情報午前免除のためのIPA認定講座として実施する。
情報処理技術者能力認定試験2級1部の合格者を対象として、指定カリキュラムの講座を実施する。

到達目標

基本情報技術者試験午前免除試験(修了試験)に合格(60点以上)する。

授業計画

授業項目・内容	時間数(コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)
セキュリティ(2情報セキュリティ管理)	1	教科書とパワーポイントを使い講義を行う。
セキュリティ(2情報セキュリティ管理,3セキュリティ技術評価)	1	
セキュリティ(3セキュリティ技術評価) ,法務(2セキュリティ関連法規)	1	
法務(2セキュリティ関連法規,3労働関連・取引関連法規)	1	
法務(3労働関連・取引関連法規) 経営戦略マネジメント(3ビジネス戦略と目標・評価)	1	
経営戦略マネジメント(3ビジネス戦略と目標・評価)	1	
演習1	1	
技術戦略マネジメント(1技術開発戦略の立案)	1	
技術戦略マネジメント(1技術開発戦略の立案,2技術開発計画)	1	
技術戦略マネジメント(2技術開発計画) システム戦略(3ソリューションビジネス)	1	
システム戦略(3ソリューションビジネス,4システム活用促進・評価)	1	
システム戦略(4システム活用促進・評価) システム企画(1システム化計画)	1	
システム企画(1システム化計画)	1	
演習2	1	
システム企画(2要件定義)	1	
システム企画(2要件定義,3調達計画・実施)	1	
システム企画(3調達計画・実施) システム開発技術(10保守・廃棄)	1	
システム開発技術(10保守・廃棄) プロジェクトマネジメント(2プロジェクトの統合)	1	
プロジェクトマネジメント(2プロジェクトの統合,3プロジェクトのステークホルダ)	1	
プロジェクトマネジメント(3プロジェクトのステークホルダ)	1	
演習3	1	
プロジェクトマネジメント(5プロジェクトの資源)	1	
プロジェクトマネジメント(5プロジェクトの資源,8プロジェクトのリスク)	1	
プロジェクトマネジメント(8プロジェクトのリスク,10プロジェクトの調達)	1	
プロジェクトマネジメント(10プロジェクトの調達,11プロジェクトのコミュニケーション)	1	
プロジェクトマネジメント(11プロジェクトのコミュニケーション) サービスマネジメント(5ファシリティマネジメント)	1	
サービスマネジメント(5ファシリティマネジメント)	1	
演習4	1	
システム監査(1システム監査)	1	
システム監査(1システム監査,2内部統制)	1	
システム監査(2内部統制)	1	
総合演習1	3	80分で演習を実施する。 演習後、自己採点、自己分析を行う。 90分解説を行う。 誤った問題はやり直しをレポートして、提出する。
総合演習2	3	
総合演習3	3	
総合演習4	3	
総合演習5	2	
総合演習6	2	
修了試験	3	
合　計	50	

時間外学習について

演習・総合演習のやり直しをレポートにして提出する。

成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について

総合演習の平均を30%、修了試験を70%で評価し、、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が 90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や未提出の課題があるものはD(不可)とする。

その他(科目と実務経験との関連性について)

シラバス　　作成日　2021.03.31

科目名	アルゴリズム入門			担当教員名	木村　宗裕			□ 実務経験
学科名	医療情報	学科	学年	1	単位数(時間数)	2単位(35時間)		
実施時期	5 月 ～ 7 月	授業形態	講義	○	演習	△	実習		実技		○は主、△は併用
教科書及び参考書								

授業の概要とねらい

プログラムを学ぶ上でアルゴリズムの知識は必須である。本科目ではフローチャートを用いてアルゴリズムの考え方を習得するとともに、プログラミングをする上で必要なデータ構造(配列・木構造・スタック・リスト構造など)についても学ぶ。授業では複数回の演習問題と確認テストを実施することで知識の定着を図るだけでなく、今後受験することになる情報処理国家試験に備える。

到達目標

ソートや探索などの代表的なアルゴリズムについて理解し、フローチャートを用いて記述することができるようになる。また、基本情報技術者試験の午前問題レベルのアルゴリズムに関する問題を解くことができるようになる。

授業計画

授業項目・内容	時間数(コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)
導入(アルゴリズムとは何か)	1	
アルゴリズム体験	1	アルゴロジック2を用いてアルゴリズムを体験する。
フローチャート・変数・分岐・繰り返し	2	
練習問題	1	練習問題後、確認課題を配布
カウンタ・集計・2重ループ	2	
練習問題	1	練習問題後、確認課題を配布
確認テスト1	1	ここまでの内容の確認テストを実施
配列・多次元配列	2	
練習問題	1	練習問題後、確認課題を配布
文字と文字列	2	
練習問題	1	練習問題後、確認課題を配布
確認テスト2	1	配列～文字と文字列までの確認テストを実施する。
データ構造(構造体・リスト構造・スタック・キュー)	2	
データ構造(木構造)	2	
練習問題	1	練習問題後、確認課題を配布
確認テスト3	1	データ構造のの確認テストを実施
探索処理(順次探索・二分探索)	3	
練習問題	1	練習問題後、確認課題を配布
ソート処理(基本交換法・基本選択法・基本挿入法)	3	
ソート処理(ヒープソート・シェーカーソート・シェルソート・マージソート)	3	
練習問題	1	練習問題後、確認課題を配布
期末テスト	2	全範囲を対象に期末テストを実施する。
合　計	35	

時間外学習について

講義内容について予習及び復習を行うこと。また、復習課題が出題された場合は必ず解き、提出をすること。

成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について

複数回実施する確認テストを30%、期末テストを70%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は評価点が90点以上ならばS、80点以上ならばA、70点以上ならばB、60点以上ならばCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や未提出の課題があるものはD(不可)とする。

その他(科目と実務経験との関連性について)

シラバス　　作成日　2021.03.31

科目名	アルゴリズム演習			担当教員名	木村　宗裕			□ 実務経験
学科名	医療情報	学科	学年	1	単位数(時間数)	3単位(60時間)		
実施時期	8 月 ～ 10 月	授業形態	講義	△	演習	○	実習	実技	○は主、△は併用
教科書及び参考書								

授業の概要とねらい

アルゴリズム入門で学んだ知識を発展させるため、擬似言語を用いた演習を行う。演習は長文の問題を解き、それに対しポイントを講義・解説する形式で行う。なお、本科目は10月に実施する基本情報技術者試験のアルゴリズム分野の対策でもあるため、それに準じたレベルの問題を演習で用いる。

到達目標

基本情報技術者試験午後問題レベルのアルゴリズムの問題を解けるようになる。

授業計画

授業項目・内容	時間数(コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)
導入・擬似言語とは	2	
関数	2	各項目について疑似言語を用いて説明したのち、演習問題で理解度を確認する。
データ構造(配列・スタック・キュー・リスト構造)	2	
探索・ソート	2	
演習1・解説	2	疑似言語の問題の演習を行う。各演習では30分問題を解き、15分自己採点・見直し、55分解説を行う。間違えた部分についてはやり直しを行い、提出する。
演習2・解説	2	
演習3・解説	2	
演習4・解説	2	
演習5・解説	2	
演習6・解説	2	
演習7・解説	2	
演習8・解説	2	
演習9・解説	2	
演習10・解説	2	
演習11・解説	2	
演習12・解説	2	
基本情報対策演習1	2	基本情報技術者試験を想定した対策演習を行う。各演習では30分問題を解き、20分自己採点・見直し、50分間解説を行う。 間違えた部分についてはやり直しを行い、提出する。
基本情報対策演習2	2	
基本情報対策演習3	2	
基本情報対策演習4	2	
基本情報対策演習5	2	
基本情報対策演習6	2	
基本情報対策演習7	2	
基本情報対策演習8	2	
アルゴリズム模擬試験1	2	基本情報技術者試験の問題を使用したアルゴリズム分野の模擬試験を行う。模擬試験は50分間とし、実施後に解説を行う。 間違えた部分についてはやり直しを行い、提出する。
アルゴリズム模擬試験2	2	
アルゴリズム模擬試験3	2	
アルゴリズム模擬試験4	2	
アルゴリズム模擬試験5	2	
アルゴリズム模擬試験6	2	
合　計	60	

時間外学習について

復習として、授業で解いた演習問題については必ずやり直しをすること。また、課題が配布された場合は必ず各自で解き、提出をすること。

成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について

複数回実施される模擬試験の平均点で40%、及び基本情報技術者試験のアルゴリズム分野の得点で60%評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は評価点が90点以上ならばS、80点以上ならばA、70点以上ならばB、60点以上ならばCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や未提出の課題があるものはD(不可)とする。

その他(科目と実務経験との関連性について)

シラバス　　作成日　2021.04.01

科目名	Excel演習			担当教員名	吉良　和也			□ 実務経験
学科名	医療情報	学科	学年	1	単位数(時間数)	3単位(60時間)		
実施時期	4 月 ～ 7 月	授業形態	講義		演習	○	実習	△	実技		○は主、△は併用
教科書及び参考書	「30時間アカデミック　情報リテラシー Office 2016」（実教出版）										

授業の概要とねらい

ビジネススキルのひとつである
Office ソフトの Word、Excelの利用方法を教科書の演習を通じて学習する。
Excelを使用することによって、基本情報技術者試験の表計算対策の基礎となる考え方を学ぶ。

到達目標

Windows10 の基礎知識(Windowsやアプリケーションの起動終了、フォルダ操作)の習得、タッチタイピングの習得。
Word、Excel の基本的な操作方法を習得。表作成や文字色サイズの変更などのビジネス文章、関数機能を使った集計ができるようになること。

授業計画

授業項目・内容	時間数(コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)
パソコンの基礎知識（Windows10の操作）	3	基礎知識（1章）をもとに基本操作を学ぶ。 起動終了、フォルダファイルの操作、入力(IME、変換)タッチタイピング（毎時間10分程度の入力練習） メール設定(To,Cc,Bcc、署名の説明)
入力練習（ホームポジション）	3	
入力練習（タイピング）	2	
パソコンの設定（メール設定）	2	
Word（実習）	5	各項目ごとに操作説明を行った後、教科書実習問題を解く。
文書作成、表作成	4	例題1を実習および提出
画像挿入、段組み、ルビ、改ページ	5	例題3を実習および提出
ワードアート、文字の折り返し	3	実習7を実習および提出
図形・数式の挿入、ページ罫線	3	例題5を実習および提出
タイピングテスト	1	10分間500文字を目標
章末テスト	2	日商PC(文書処理)の3級過去問から1回分を出題
Excel（実習）	5	各項目ごとに操作説明を行った後、教科書実習問題を解く。
表の作成、体裁	5	例題7を実習および提出
表示非表示、ページレイアウト、数式計算	3	例題8を実習および提出
相対参照、絶対参照、関数	3	例題11～16を実習および提出
関数の利用、シート間の参照	3	
グラフと図形	3	例題19を実習および提出
Excelデータの活用（WordにExcelデータを埋め込む）	3	実習28を実習および提出
章末テスト	2	日商PC(データ活用)の3級過去問を1回分を出題
合　計	60	

時間外学習について

教科書の各章毎に該当範囲を事前に読んでおくこと。また、実習課題を解いて期日までに提出すること。
課題が終わらない場合は、授業時間外で完成させること。

成績評価の方法及び評価割合について

章末テストを評価点（100点満点)を算出する。評価は章末テストWordとExcelの平均を算出し、評価点が 90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可）とする。尚、出席率80%未満や未提出の課題があるものはD（不可）とする。

その他（科目と実務経験との関連性について）

シラバス　　作成日　2021.04.01

科目名	表計算演習			担当教員名	森﨑　真由美			□ 実務経験
学科名	医療情報	学科	学年	1	単位数(時間数)	3単位(60時間)		
実施時期	8 月 ～ 10 月	授業形態	講義	△	演習	○	実習	実技	○は主、△は併用
教科書及び参考書								

授業の概要とねらい

表計算実習のExcelで実習した知識を基本情報技術者試験の午後問題の選択科目「表計算」に活かすため、プリント演習を行う。
演習は長文の問題を解き、それに対しポイントを講義・解説する形式で行う。
なお、基本情報技術者試験の「表計算」の対策でもあるため、それに準じたレベルの問題を演習で用いる。

到達目標

ワークシートの表現方法や関数仕様の知識を身に付け、基本情報技術者試験の午後問題の選択科目「表計算」が解けるようになる。

授業計画

授業項目・内容	時間数(コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)
Excelと表計算の見方の違いについて	2	Excelと表計算の見方、違いについて説明する。 関数仕様、相対関数、疑似言語のについて説明したのち、演習問題で理解度を確認する。
関数	4	
マクロ	3	
演習1・解説	2	表計算の問題の演習を行う。 各演習では30分問題を解き、15分自己採点・見直し、55分解説を行う。 間違えた部分についてはやり直しを行い、提出する。
演習2・解説	2	
演習3・解説	2	
演習4・解説	2	
演習5・解説	2	
演習6・解説	2	
演習7・解説	2	
演習8・解説	2	
基本情報対策演習1	2	基本情報技術者試験を想定した対策演習を行う。 各演習では30分問題を解き、20分自己採点・見直し、50分間解説を行う。 また、模擬試験解説では別途行われる模擬試験についての解説を行う。 間違えた部分についてはやり直しを行い、提出する。
基本情報対策演習2	2	
基本情報対策演習3	2	
基本情報対策演習4	2	
基本情報対策演習5	2	
模擬試験解説	1	
基本情報対策演習6	2	
模擬試験解説	1	
基本情報対策演習7	2	
基本情報対策演習8	2	
模擬試験解説	1	
基本情報対策演習9	2	
模擬試験解説	1	
基本情報対策演習10	2	
基本情報対策演習11	2	
模擬試験解説	1	
基本情報対策演習12	2	
基本情報対策演習13	2	
基本情報対策演習14	2	
模擬試験解説	2	
合　計	60	

時間外学習について

復習として、授業で解いた演習問題については必ずやり直しをすること。
また、課題が配布された場合は必ず各自で解き、提出をすること。

成績評価の方法及び評価割合について

基本情報技術者試験の模擬試験及び本試験の言語分野「表計算」の得点の平均結果を100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。
評価は、評価点が 90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や未提出の課題があるものはD(不可)とする。

その他(科目と実務経験との関連性について)

シラバス　　作成日　2021.03.31

科目名	Java基礎			担当教員名	丸尾　健悟			☑ 実務経験
学科名	医療情報	学科	学年	1	単位数(時間数)	2単位(40時間)		
実施時期	5 月 ～ 7 月	授業形態	講義	△	演習	○	実習	△	実技		○は主、△は併用
教科書及び参考書	本格学習 Java入門［改訂3版］（技術評論社）							

授業の概要とねらい

本講座は、①プログラミングの基礎を学ぶ　②Java言語でのプログラムの作成方法を理解する　の2点を目標とする。授業では参考書でポイントを説明・確認した後に演習課題を出題する。作成した課題のプログラムに対しては、提出後に担当教員によるチェックと指摘を行うことで高品質なプログラムの作成方法を学ぶ。なお、本講座は1年後期のJava応用の前提となる授業である。

到達目標

分岐や繰り返しが用いられた基本的なJavaのプログラムを作成することができるようになること。また、メソッドについて理解し、メソッドの作成・利用ができるようになること。

授業計画

授業項目・内容	時間数(コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)
概要説明・環境構築	2	JDK・Visual Studio Codeのインストール
プログラムの作り方・文字の表示(参考書2-3～2-5)	2	
データ型と変数、算術演算子(参考書3-1～3-3・4-1～4-3)	2	
演習課題1（変数を用いた計算及び結果の表示）	3	提出後添削を受け、不備がある場合は再提出を行う。
条件分岐Iと比較演算子(参考書5-1～5-2、4-4～4-7)	2	
演習課題2（条件分岐）	3	提出後添削を受け、不備がある場合は再提出を行う。
繰り返し処理(参考書6-1～6-4)	2	
演習課題3（繰り返し）	3	提出後添削を受け、不備がある場合は再提出を行う。
配列・多次元配列(参考書3-4)	2	
演習課題4（配列・多次元配列）	3	提出後添削を受け、不備がある場合は再提出を行う。
メソッド(参考書7-1～7-4)	2	
演習課題5（メソッドの呼び出し）	2	提出後添削を受け、不備がある場合は再提出を行う。
演習課題6（メソッドの作成）	3	
総合課題	7	難易度別に用意された課題を個々に作成する。提出後添削を受け、不備がある場合は再提出を行う。
確認テスト	2	
合　計	40	

時間外学習について

授業内容についての予習・復習を教科書を用いて行うこと。また、時間内に完成できなかった課題は授業時間外に作成し、指定された期日までに提出すること。

成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について

出席状況・授業態度25%、提出課題（任意提出の応用課題も含む）の完成度50%、確認テスト25%で評価し、評価点（100点満点）を算出する。評価は評価点が90点以上ならばS、80点以上ならばA、70点以上ならばB、60点以上ならばCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や未提出の課題があるものはD(不可)とする。また、他学生の課題をコピーして提出した場合は、全ての課題についてやり直しと再提出を求める。

その他（科目と実務経験との関連性について）

Javaを使った出退勤管理システムや資材管理システムを作成した実務経験をもとに、分かりやすいソースコードを記述することの重要性を理解してもらうと共に、演習を通してその指導を行う。

シラバス　　作成日　2021.04.01

科目名	Java応用A			担当教員名	森﨑真由美・丸尾健悟			☑ 実務経験	
学科名	医療情報	学科	学年	1	単位数(時間数)	4単位(80時間)			
実施時期	9 月 ～ 12 月	授業形態	講義	△	演習	○	実習	△	実技		○は主、△は併用
教科書及び参考書	本格学習 Java入門［改訂3版］（技術評論社）										

授業の概要とねらい

Javaはアプリケーション開発用のプログラミング言語として広く普及し、実務でも使用場面が多いので、しっかりマスターしておく必要がある。前期に学んだ基礎的な内容を復習後、クラスや継承などのオブジェクト指向プログラミングについて学ぶ。
プリント教材や課題を利用することで、より理解度を高め、実装することで総合的なプログラミング力をつけることをねらいとする。
なお、プリント教材や課題は教科書の各章で行った演習内容を発展させたもので、これにより、応用力を養う。

到達目標

変数の定義・命名、クラス・メソッドの作成・呼出、標準ライブラリの利用、イベント処理のプログラミングができるようになること。

授業計画

授業項目・内容	時間数（コマ）	教育活動(教材、指導上の注意点)
[復習] Java言語の基礎復習	6	プログラム基礎(メソッドの呼出、繰り返し、分岐)をプリント教材で復習する。また、開発環境の設定を行う。
[環境構築] プログラム開発環境の設定	2	
第8章　クラス	2	教科書をもとに、各章の説明と教科書演習を行ったのち、プリント課題の実習を行う。課題を作成した後に動作確認を行い、誤っているところがあれば修正し、課題を完成させる。その後、提出をする。 動作確認は、教科書またはプリント教材の実行結果と相違ないか画面で目視の確認を行うこと。 不明瞭な部分については教員と共に動作確認を行う。
クラス定義、オブジェクト生成、利用	2	
継承とコンストラクタ	2	
標準ライブラリの利用（import、ラッパークラス）	4	
プリント課題	4	
第9章　例外処理	2	
try catch、例外の階層構造	2	
プリント課題	2	
ミニテスト	2	第8章～第10章の範囲でプリント課題をもとに出題。 （プログラム作成による実技テスト）
復習課題	6	教科書をもとに、各章の説明と教科書演習を行ったのち、プリント課題の実習を行う。課題を作成した後に動作確認を行い、誤っているところがあれば修正し、課題を完成させる。その後、提出をする。 修正箇所や動作確認については、グループワークにて生徒間でチェックを行わせる。このことにより、学生のプログラムを書く・読む習慣を身につける。 提出物については教員が動作確認を行う。
第10章　データの入出力	2	
コマンドライン引数を利用したデータ入力	2	
Scannerを利用したデータ入力	2	
プリント課題	3	
第11章　マルチスレッド	2	
シングルスレッドとマルチスレッドの動作	2	
プリント課題	6	
第12章　ネットワークプログラミング	2	
クライアント・サーバーモデル	2	
プリント課題	6	
第13章　GUIとイベント処理	2	
SwingによるGUIの作成	2	
イベントソースとイベントリスナ	2	
プリント課題	6	
科目試験	3	第8章～第13章の範囲でプリント課題をもとに出題。 （プログラム作成による実技テスト）
合　計	80	

時間外学習について

教科書を利用して予習を行うこと。また、配布されたプリント課題は解いて期日までに提出すること。
課題が終わらない場合は、授業時間外で完成させること。

成績評価の方法及び評価割合について

プリント課題はエラーが無く、正常動作するものを評価する。課題の出来を30%、ミニテストを30%、科目試験を40%で評価し、評価点（100点満点)を算出する。評価は、評価点が 90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可）とする。尚、出席率80%未満や未提出の課題があるものはD（不可）とする。

その他（科目と実務経験との関連性について）

システム開発業務の中でプログラミング作業を経験した内容をもとに、ソースコードの記述方法(インデントや括弧の整理など開発・修正・確認時の見やすさ)や変数・メソッドの命名方法(機能としてわかりやすい名前を付けることで不具合を減らす)などについて教える。また、設計作業で体験した内容をもとに、プログラムのオブジェクト指向(メソッド化や機能の集約)について指導する。

シラバス　　作成日　2021.03.31

科目名	ネットワーク＆セキュリティ			担当教員名	木村　宗裕			□ 実務経験
学科名	医療情報	学科	学年	1	単位数(時間数)	5単位(75時間)		
実施時期	11 月 ～ 2 月	授業形態	講義	○	演習	△	実習	△	実技		○は主、△は併用
教科書及び参考書											

授業の概要とねらい

近年においてセキュリティは重要視される知識であり、今後もその流れは拡大していくと思われる。また、多くの機器がネットワークに接続されていることから、ネットワークに関する知識も必要になる。本科目ではネットワークとセキュリティにおいて重要な知識を講義形式で学ぶとともに、演習を通じてその知識や技術を実際に体験することでその理解を深める。また、情報処理国家試験の問題を使用した演習も実施する。授業ではまずネットワークについて学び、その後その知識をもとにセキュリティについて学ぶ。

到達目標

ネットワークおよびセキュリティの知識について理解し、応用情報技術者試験レベルの問題が解けるようになる。また、ネットワークの仕組みや攻撃手法について知ることで、その対策をとることができるようになる。

授業計画

授業項目・内容	時間数(コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)
授業説明	1	
授業プリント1　OSI基本参照モデルとその役割	1	プリントを使用し講義する。
授業プリント2　OSI基本参照モデルとネットワーク機器	1	
授業プリント3　OSI基本参照モデルと通信(MACアドレス・IPアドレス・ポート番号)	1	
実習：MACアドレス・IPアドレス・ポート番号の確認	1	コマンドを使用しネットワークの情報を確認する。
授業プリント4　IPアドレス	2	講義と演習問題を実施。演習問題はやり直しを提出すること。
IPアドレス練習問題・解説	2	
授業プリント5　サブネットマスクとサブネットワーク	2	
サブネットマスク練習問題・解説	2	
授業プリント6　IPアドレス・サブネットワーク練習問題・解説	2	
授業プリント7　TCP・UDP	2	プリントを使用し講義する。
授業プリント8　IPアドレス変換(NAT・IPマスカレード)	2	
授業プリント9　通信プロトコル(SMTP・POP3・DHCP・DNS)	2	
授業プリント10　無線LANとその規格	2	
ネットワーク総合演習問題・解説	9	ネットワーク分野の総合的な演習問題をした後に確認テストを実施。テストはやり直しを提出。
確認テスト1 （ネットワーク分野）	2	
授業プリント11　暗号化方式(共通かぎ暗号方式・公開鍵暗号方式)	1	講義と演習問題を実施。演習問題はやり直しを提出すること。 実習では実際の攻撃手法を実習用環境内で体験する。
ディジタル署名・メッセージダイジェスト・認証局	2	
暗号化方式練習問題・解説	4	
授業プリント12　ネットワークの脅威と攻撃手法	2	
実習：セキュリティ脅威の体験	2	
授業プリント13　FWとアクセス制御	2	プリントを使用し講義する。
アクセス制御練習問題	2	
授業プリント14　VPNとIPSec	2	
授業プリント15　VLAN	2	
セキュリティ総合演習問題・解説	9	ネットワーク分野の総合的な演習問題をした後に確認テストを実施。テストはやり直しを提出。
確認テスト2 （セキュリティ分野）	2	
ネットワーク・セキュリティ総合演習問題・解説	9	両分野の総合的な演習問題をした後に確認テストを実施。テストはやり直しを提出。
確認テスト3 （ネットワーク・セキュリティ分野）	2	
合　計	75	

時間外学習について

授業については必ず予習を行うとともに、授業後には復習を行うこと。練習問題が出題された場合、またはやり直し指示がある場合は必ず期限内にやり終えたのちに提出を行うこと。また、テスト終了後はやり直しを提出すること。

成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について

3回の確認テストで80%の評価を行う(確認テスト1：20%、確認テスト2：20%、確認テスト3：40%)。また、授業に取り組む姿勢(出席率・課題提出・実習の取り組み)を20%で評価する。各評価項目から評価点（100点満点）を算出する。評価は評価点が90点以上ならばS、80点以上ならばA、70点以上ならばB、60点以上ならばCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や未提出の課題があるものはD(不可)とする。

その他（科目と実務経験との関連性について）

シラバス　　作成日　2021.03.31

科目名	データベース			担当教員名	木村　宗裕・森﨑　真由美		□ 実務経験				
学科名	医療情報		学科	学年	1		単位数(時間数)		2単位(45時間)		
実施時期	1 月 ～ 3 月	授業形態	講義	△	演習	○	実習	△	実技		○は主、△は併用
教科書及び参考書	基礎からのMySQL 第3版 (SBクリエイティブ)										

授業の概要とねらい

SQLによるデータベース操作は、今後の授業においても将来の仕事においても必ず必要になる知識である。本科目ではMariaDBを用いてデータベースのインストールや環境構築の方法から学んだ後、、SQLを使用したデータベース操作について実習も交えて学び、演習課題やテストを通じて理解を深める。また、PHPを用いてWEBページからデータベースへ接続し、操作する方法についても学ぶ。

到達目標

MariaDBを用いてデータベースの環境構築が行うことができるようになる。また、加えてSQLによるテーブル作成や各種操作を理解し、管理を行うことができるようになる。また、WEBページとデータベースとの連携方法についても理解する。

授業計画

授業項目・内容	時間数(コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)
概要説明・環境構築	1	XAMPPのインストール、MariaDBの言語設定。
MariaDBの起動・ログイン	1	教科書をベースに実習。
データベースの作成・データ型・テーブル作成・データの追加	2	
テーブルの変更・コピー・削除	1	
SELECT・エイリアス・計算・関数	2	
WHERE・LIKE・AND・OR	2	
確認テスト1	1	ここまでの内容の確認テスト。 間違えた問題はやり直しを提出。
ORDER BY・GROUP BY・HAVING	2	教科書をベースに実習。
UPDATE・INSERT・DELETE	2	
確認テスト2	1	確認テスト1以降～ここまでの範囲のテスト。 間違えた問題はやり直しを提出。
テーブルの結合	4	教科書をベースに実習。
サブクエリ	4	
確認テスト3	1	確認テスト2以降～ここまでの範囲のテスト。 間違えた問題はやり直しを提出。
総合演習課題1	3	全範囲を対象に演習課題を出題。指定された内容の処理を行うSQL文を自分で考え作成する。
総合演習課題2	3	
PHPの説明と動作確認 (CHAPTER 15)	1	PHPの使い方について講義と実習を交互に実施する。
PHPの基礎知識 (CHAPTER 16)	2	
PHPスクリプトとHTML (CHAPTER 17)	2	
PHPによるデータベース操作 (CHAPTER 18)	2	
実習課題1 簡単掲示板作成 (CHAPTER 19)	5	成果物はオンラインで動作確認する。
セキュリティ対策について (CHAPTER 20)	1	セキュリティについて講義する。
確認テスト4	2	全範囲の確認テスト。
合　計	45	

時間外学習について

授業内容については必ず教科書を読み予習を行うこと。また、授業時間内に終わらなかった作業については次の時間までに終わらせておくこと。毎時間復習を行い確認テストに備えるとともに、確認テストで間違えた問題についてはやり直しを提出すること。

成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について

4回の確認テストで80%の評価を行う(確認テスト1～3:各15%、確認テスト4:30%)。また、授業に取り組む姿勢(出席率・課題提出・実習の取り組み)を25%で評価する。各評価項目から評価点(100点満点)を算出し評価を行う。評価は評価点が90点以上ならばS、80点以上ならばA、70点以上ならばB、60点以上ならばCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や未提出の課題があるものはD(不可)とする。

その他(科目と実務経験との関連性について)

シラバス　　作成日　2021.03.31

科目名	HTML基礎			担当教員名	木村　宗裕・吉良　和也			□　実務経験	
学科名	医療情報		学科	学年	1		単位数(時間数)	2単位(40時間)	
実施時期	9　月　～　12　月	授業形態	講義	△	演習	○	実習	△	実技		○は主、△は併用
教科書及び参考書	HTML5&CSS3標準デザイン講座【第2版】(翔泳社)										

授業の概要とねらい

Webページを作成するときだけでなく、Webアプリを作成する際にもHTMLとCSSは非常に重要である。本科目ではHTMLとCSSの基礎を教科書を用いて学び、Webページの作成方法を理解する。また、作成するだけでなくWebサーバ(Apache)を用いてWebページを公開する方法についても学習する。

到達目標

HTMLとCSSについての役割を理解し、それらを用いて構造的でレイアウトの整ったWebページの作成ができるようになる。

授業計画

授業項目・内容	時間数(コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)
授業内容の説明・環境構築(XAMPPのインストール)	1	Apacheを使用し、作成したWebページをオンラインで確認することが可能な環境を構築する。
HTMLとCSSの説明(P8～11)	1	
Lesson01 HTMLの概要(P14～19)	1	教科書を参考にポイントを説明し、Webページの作成を行う。作成したWebページはApacheでアクセスできるよう設定し、教員によるチェック及び学生間での相互チェックを行う。
Lesson02 HTML文書のマークアップ(P20～31)	2	
Lesson03 ブロックレベルの基本タグ(P32～41)	2	
Lesson04 テキストレベルの基本タグ(P42～48)	2	
Lesson04 絶対パスと相対パス(P49～53)	1	
Lesson05～06 CSSの概要・基本的なプロパティの使い方(P56～74)	2	
Lesson07 基本的なセレクタの使い方(P75～91)	2	
Lesson08 背景画像を使った要素の装飾(P92～101)	1	
Lesson09 CSSを使った要素の装飾(P102～108)	1	
Lesson10 初歩的な文書のレイアウトとボックスモデル(P109～118)	2	
Lesson11 表とフォームの設置(P124～136)	2	
Lesson12 表組と入力フォームのスタイリング(P137～148)	2	
確認テスト	2	今までの内容の確認テストを実施する
演習課題　オリジナルのWEBページの企画・構造設計	2	作成したWebページは提出する。 優秀作品はプロジェクタで投影し紹介をする。
WEBページ・CSSの作成	12	
WEBページの評価・まとめ	2	
合　計	40	

時間外学習について

授業内容についての予習・復習を行うこと。また、授業時間内に完成しなかった実習課題は必ず指定の期日までに完成させ提出すること。

成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について

出席状況と授業態度を25%、演習課題の完成度を50%、確認テストの点数を25%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は評価点が90点以上ならばS、80点以上ならばA、70点以上ならばB、60点以上ならばCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や未提出の課題があるものはD(不可)とする。

その他(科目と実務経験との関連性について)

シラバス　　作成日　2021.04.01

科目名	JavaScript Ⅰ			担当教員名	吉良　和也			☑ 実務経験
学科名	医療情報	学科	学年	1	単位数(時間数)	2単位(40時間)		
実施時期	12 月 ～ 3 月	授業形態	講義	△	演習	○	実習	△	実技		○は主、△は併用
教科書及び参考書	「本当によくわかるJavaScriptの教科書」（SB Creative） 「HTML5&CSS3標準デザイン講座 30LESSONS」（翔泳社）							

授業の概要とねらい

Webサイト・Webアプリ・スマホアプリのWeb画面などの、多くの開発で採用されているJavaScriptについて、
HTML・CSS等を組み合わせ、動的なページの表現技術や知識を学習する。
プログラム作成課題を解く中で、要求文書や画面レイアウトからプログラムによる問題解決力を育成する。

到達目標

JavaScriptを用いた基本的なDOM操作、イベント処理ができるようになること。

授業計画

授業項目・内容	時間数（コマ）	教育活動(教材、指導上の注意点)
[環境構築] プログラム開発環境の設定と作業環境構築	1	プリント課題でHTML、CSSのおさらいをする。
HTML、CSSのおさらい	1	
HTML5 フォーム(タグ、属性、要素) GET、POST	1	
CSS3 セレクタ、プロパティ、スタイル	1	
CSS3 疑似要素、疑似クラス	1	
HTMLCSSの振り返り課題	1	
Chapter1 JavaScriptとは	1	教科書をもとに、各章の説明と教科書演習を行ったのち、プリント課題の実習を行う。
Chapter2 JavaScriptの基本	1	
記述方法とエラー	1	
変数とデータ型（型の扱い、他言語の違い）	1	
数値と計算	1	
文字列と配列	1	
ダイアログボックス	2	
プログラム作成課題	3	Chapter1～2までの範囲。
Chapter3 条件分岐	1	教科書をもとに、各章の説明と教科書演習を行う。プログラムの流れは他言語で行っているのでJavaScriptの動きを確認する。
Chapter4 繰り返し	1	
Chapter5 関数	1	
Chapter6 オブジェクト	1	教科書をもとに、各章の説明と教科書演習を行ったのち、プリント課題の実習を行う。
Windowオブジェクト	1	
Mathオブジェクト、Dateオブジェクト	1	
DOM操作	2	
プログラム作成課題	2	Chapter1～6までの範囲。
Chapter7 イベント	1	教科書をもとに、各章の説明と教科書演習を行ったのち、プリント課題の実習を行う。
イベントハンドラ、イベントリスナー、clickイベント(HTML属性)	4	
タイマー処理	1	
プログラム作成課題	5	
科目テスト	2	プログラム作成による実技テストを行う。
合　計	40	

時間外学習について

教科書の各章毎に該当範囲を事前に読んでおくこと。また、配布された課題を解いて期日までに提出すること。
課題が終わらない場合は、授業時間外で完成させること。

成績評価の方法及び評価割合について

課題のプログラムはエラーが無く、正常動作するものを評価する。課題の出来を100%で評価し、評価点（100点満点)を算出する。評価は、評価点が 90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や未提出の課題があるものはD（不可）とする。

その他（科目と実務経験との関連性について）

Webシステム開発業務で経験した内容をもとに、HTML・CSSを使用したWebコンテンツの作り方、ブラウザ(Google Chrome)を用いたJavaScriptの検証方法などについて指導する。

シラバス　　作成日　2021.03.31

科目名	基本情報技術者試験対策演習			担当教員名	木村宗裕・森崎真由美 馬場　清・宮川　智行			□ 実務経験			
学科名	医療情報	学科		学年	1		単位数(時間数)	1単位(30時間)			
実施時期	10 月 ～ 10 月	授業形態	講義		演習	○	実習		実技		○は主、△は併用
教科書 及び参考書											

授業の概要とねらい

基本情報技術者試験試験の合格を目指して、午後問題の演習・解説を行う。
基本情報技術者試験の問題を通して、IT技術者として基本な知識を身に付ける。

到達目標

基本情報技術者試験の午後問題が解けるようになる。
最終的には合格をすることを目指す。

授業計画

授業項目・内容	時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)
基本情報技術者試験　模擬試験1	3	基本情報技術者試験の過去問題や予想問題を利用した模擬試験を実施する。午後問題を対象として150分で実施する。その後、自己採点、自己分析を行う。 模擬試験後は、表計算・アルゴリズム・IT技術（セキュリティ等）の各分野の解説を行う。 対策演習では各分野の演習問題を実施する。
基本情報技術者試験　模擬試験1　解説	3	
基本情報技術者試験　模擬試験2	3	
基本情報技術者試験　模擬試験2　解説	3	
対策演習1	3	
基本情報技術者試験　模擬試験3	3	
基本情報技術者試験　模擬試験3　解説	3	
基本情報技術者試験　模擬試験4	3	
基本情報技術者試験　模擬試験4　解説	3	
対策演習2	3	
合　計	30	

時間外学習について

模擬試験で解いた問題を理解し、解けるようになるまで復習をする。

成績評価の方法及び評価割合について

基本情報技術者試験 本試験の結果を100%で評価し、評価点（100点満点)を算出する。本試験が受けられなかった場合は、模擬試験の結果を考慮して評価する。評価は、評価点が 90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可）とする。
尚、出席率80%未満や未提出の課題があるものはD（不可）とする。

その他（科目と実務経験との関連性について）

シラバス　　作成日　2021.03.31

科目名	情報処理試験総合演習Ⅰ		担当教員名	木村宗裕・森﨑真由美 馬場清	□ 実務経験
学科名	医療情報	学科	学年	1	単位数(時間数)	2単位(40時間)
実施時期	1 月 ～ 3 月	授業形態	講義 △	演習 ○	実習	実技	○は主、△は併用
教科書 及び参考書	「ITワールド」(インフォテックサーブ) 「IT戦略とマネジメント」(インフォテックサーブ)					

授業の概要とねらい

4月に実施される情報処理技術者試験に向けて、模擬試験や演習を実施する。

到達目標

情報処理技術者試験に合格すること。

授業計画

授業計画

授業項目・内容	時間数(コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)
演習1	2	各分野ごとにそれぞれ過去出題の問題を利用し演習を行う。 そして、ポイントを解説する。 間違えた問題についてはやり直しを行い、レポートとして提出する。
演習2	2	
演習3	2	
演習4	2	
演習5	2	
演習6	2	
演習7	2	
演習8	2	
演習9	2	
演習10	2	
演習11	2	
演習12	2	
演習13	2	
演習14	2	
演習15	2	
演習16	2	
演習17	2	
模擬試験1	3	実際の試験時間(150分)と出題形式に合わせた模擬試験を行う。
模擬試験2	3	
合　計	40	

時間外学習について

模擬試験の問題の復習と誤った部分のレポートの提出

成績評価の方法及び評価割合について

情報処理技術者試験の模擬試験と本試験の平均点とレポートの提出状況を100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。本試験が受けられなかった場合は、模擬試験の結果を考慮して評価する。評価は、評価点が 90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や未提出の課題があるものはD(不可)とする。

その他(科目と実務経験との関連性について)

シラバス　　作成日　2021.04.01

科目名	医学医療Ⅰ		担当教員名	中島　千春		□ 実務経験
学科名	医療情報	学科	学年	1	単位数(時間数)	1単位(20時間)
実施時期	12 月 ～ 3 月	授業形態	講義	○	演習	実習	実技	○は主、△は併用
教科書及び参考書	医療情報第6版　医学医療編　／オリジナル「重要ポイント集」					

授業の概要とねらい

「医療情報技師能力検定」は、3つの分野に分かれており、その中の「医学医療分野」を学ぶ。
翌年に受験する「医療情報技師能力検定」に合格するため、用語とその意味を重点的に学ぶ。

到達目標

医療情報技師能力検定（医学医療分野）で出題される、用語とその意味が分かること。

授業計画

授業項目・内容	時間数(コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)
・社会における医療の役割	1	「医療情報第6版　医学医療編」テキストをまとめた、オリジナルの「重要ポイント集」を使用する。 項目ごとに用語、意味、関連事項を解説する。
・医の倫理		
・社会保障制度と医療制度	1	
・医療専門職の責務	1	
・健康指標と健康の保持増進		
・地域医療連携		
・医療、病院管理	1	
・病院管理部門		
・横断的部門連携	1	
・医療の外部評価		
・診療プロセス	1	
・EBMと診療ガイドライン		
臨床医学①	1	臨床医学・医薬品・臨床検査分野は、スクリーン＋「重要ポイント集」を使う。 実際の写真・画像・図を見ながら視覚的に学ぶ。
臨床医学②	1	
臨床医学③	1	
臨床医学④	1	
・医薬品	1	
・先進医学		
・臨床検査①	1	
・臨床検査②	1	
・臨床検査③	1	
・医用画像診断	1	
・治療	1	「医療情報第6版　医学医療編」テキストをまとめた、オリジナルの「重要ポイント集」を使う。 項目ごとに用語、意味、関連事項を解説する。
・医療記録の作成と管理		
・医療記録の構成要素	1	
・医療に関わる諸記録の取扱い		
・医療記録の標準コード	1	
・医療関係記録の保存管理		
・医学研究の基礎	1	
・医学研究の進め方		
・医学・医療統計の基礎		
・推定と検定	1	
・臨床データベースの実例		
合　計	20	

時間外学習について

重要ポイント集とノートを見て、復習をすること。

成績評価の方法及び評価割合について

定期試験及び出席率により評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が 90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満の場合はD(不可)とする。

その他（科目と実務経験との関連性について）

シラバス　　作成日　2021.04.01

科目名	医療情報処理Ⅰ		担当教員名	小田原　香織		□ 実務経験
学科名	医療情報	学科	学年	1	単位数(時間数)	1単位(20時間)
実施時期	11 月 ～ 3 月	授業形態	講義	○	演習	△	実習		実技		○は主、△は併用
教科書及び参考書	医療情報技師能力認定試験　過去問題・解説集										

授業の概要とねらい

医療情報技師能力検定試験の情報処理科目の過去問題を用いて、医療情報技師に必要な基礎的な情報処理の知識について学ぶ。

到達目標

医療情報技師に必要な情報処理ついての知識を深め、理解できるようになる。

授業計画

授業項目・内容	時間数(コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)
コンピュータの基本構成	2	医療情報処理技術で必要となる知識を纏めたオリジナルの「重要ポイント集」を使用する。 情報処理の用語、意味、関連事項を解説する。 各項目の復習プリントを解き、提出すること。
ネットワークの基礎知識	5	
関係データベース(SQLによるデータ操作)	5	
業務システムの運用と保守	3	
システム管理について	2	
情報セキュリティ技術	3	
合　計	20	

時間外学習について

復習プリントを行い、提出すること。

成績評価の方法及び評価割合について

定期試験の結果及び出席率による総合評価とし、評価点(100点満点)を算出する。評価は90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満はD(不可)とする。

その他(科目と実務経験との関連性について)

シラバス　　作成日　2021.04.01

科目名	医療情報システムⅠ		担当教員名	堤　明裕		□ 実務経験
学科名	医療情報	学科	学年	1	単位数(時間数)	1単位(20時間)
実施時期	11 月 ～ 3 月	授業形態	講義	○	演習 △	実習　実技　○は主、△は併用
教科書及び参考書	医療情報　第6版　医療情報システム編					

授業の概要とねらい

厚生労働省が進める病院システムの標準化と病院内のシステム化によるワークフロー、システム化を進める上で必要なガイドラインを履修する。また次年度8月に行われる医療情報技師能力検定試験に向けての対策としての授業も併せて行う。

到達目標

病院システムを構築する上で必要になる用語の知識を身に付け、システムが医療スタッフの業務間で担う役割を正確に説明できることを目標とする。

授業計画

授業項目・内容	時間数(コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)
(1章)医療の情報化の歴史と医療情報の特性	1	病院の業務の流れにおいて、病院情報システムが担う役割と各部門ごとの繋がりを学習する。 病院の各部門システムをつなぐオーダーエントリシステムでの指示・実施入力のタイミング、各部門システムがどのように動くのかを重点的に学習する。 各項目の模擬問題を配布する。 厚生労働省発行ガイドラインデータ、各種資料を参考にし解答を記入すること。
(2章)医療情報システムの標準化と各種連携について	1	
	1	
(3章)病院システム全体の説明～レセコンの導入	1	
(3章)電子カルテとレセコンの連携、オーダーエントリ	1	
(3章)情報管理と物流管理による経営管理とデータの運用	1	
(3章)中央診療部門系システム (診療部門直通のシステム:薬剤・検体検査部門)	1	
(3章)中央診療部門系システム (診療部門直通のシステム:生理機能検査部門)	1	
(3章)中央診療部門系システム (診療部門直通のシステム:内視鏡・病理検査部門)	1	
(3章)中央診療部門系システム (診療部門直通のシステム:放射線検査部門)	1	
(3章)歯科・口腔系、各科検査・処置システム	1	
(3章)入院に関するシステム	1	
(4章)システム導入時の院内・院外との調整	2	
(5章)医療情報システム運用のための各種ガイドライン	2	
(6章)病院システムの外部監査、評価について	2	
(7章)医療情報システムを支える各種標準化と用語	1	
(8・9章)技師の仕事の進め方と将来的な展望	1	
合　計	20	

時間外学習について

厚生労働省発行ガイドラインデータ、各種資料を参考にし、模擬問題を解答すること。

成績評価の方法及び評価割合について

定期試験及び出席率で評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が 90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満の場合はD(不可)とする。

その他(科目と実務経験との関連性について)

シラバス　　作成日　2021.04.01

科目名	グループワークⅡ			担当教員名	小田原　香織		□ 実務経験
学科名	医療情報	学科	学年	1	単位数(時間数)		1単位(30時間)
実施時期	1 月 ～ 3 月	授業形態	講義	△	演習		実習 ○ 実技 △ ○は主、△は併用
教科書及び参考書							

授業の概要とねらい

社会人として働く際には知識や技術やだけではなく、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力も必要になる。本科目では、グループワークを通じて就職後に必要なコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付けることを目的とする。

到達目標

グループワークでのファシリテーターの役割について理解し、積極的な議論を行うことが出来るようになる。またPowerPointを使用して効果的なプレゼンテーションが行えるようになること。

授業計画

授業項目・内容	時間数(コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)
授業説明・アイスブレイク	2	短時間のスピーチやグループワークを行うことで自分の意見を述べることに慣れる。また、グループワークを行うことで重要なことは何かを考える。
グループワーク1	2	
グループワーク2	2	
グループワーク3	2	
グループワーク4	2	
グループワーク5(プレゼンテーション1:医療制度について)	3	PowerPointの操作方法および発表方法を最初に教え、各自テーマに沿ったプレゼンを行う。作成時間については3時間とし、発表後、プレゼン内容について評価を行う。 作成したPowerPointについては提出する。
グループワーク6(プレゼンテーション2:医療と病院管理)	3	
グループワーク7(プレゼンテーション3:地域医療連携・遠隔医療)	3	
グループワーク8(プレゼンテーション4:医療情報システムについて)	3	
グループワーク9(プレゼンテーション5:情報システムセキュリティ技術)	4	
グループワーク10(プレゼンテーション6:情報システムの構成と機能)	4	
合　計	30	

時間外学習について

プレゼンテーション前に発表練習を行っておくこと。

成績評価の方法及び評価割合について

発表内容及び出席率で評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が 90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や作成したPowerPointのファイルが未提出の場合はD(不可)とする。

その他(科目と実務経験との関連性について)

シラバス　　作成日　2021.04.01

科目名	Word基礎			担当教員名	長尾　雄二			□ 実務経験
学科名	医療情報	学科	学年	1	単位数(時間数)	1単位(30時間)		
実施時期	12 月 ～ 3 月	授業形態	講義		演習		実習	○	実技		○は主、△は併用
教科書及び参考書								

授業の概要とねらい

主に日本商工会議所主催のワープロ検定3級の過去問題を解きながら、Wordの各機能の把握と使い方の習得、また、その機能を用いて自分で考えながらビジネス文書を作成できる能力を身に付ける。またタイピングソフトを利用してタイピングの入力練習を行い、タッチタイピングの習得と文字入力速度の向上を目指す。

到達目標

Wordの機能を把握理解したうえで、ビジネス文書を作成できるようになること。
10分間の入力速度が500文字を超えること。

授業計画

授業項目・内容	時間数(コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)
実習問題「特定がん検診のお知らせ」作成・チェック・修正	3	ビジネス文書の作成を行う。 50分間のうち、10分間は入力練習の時間とする。 タイピング練習及び10分入力測定を行う。 ビジネス文書作成のルールおよびWordの基本操作を教える。
実習問題「特別試写会のご案内」作成・チェック・修正	3	
タイピング練習	1	
実習問題「新作内覧会のお知らせ」作成・チェック・修正	3	
タイピング練習	1	
実習問題「新製品発表会のご案内」作成・チェック・修正	3	
タイピング練習及び10分間測定	1	
実習問題「教材送付のご案内」作成・チェック・修正	3	
実習問題「申込商品送付のご案内」作成・チェック・修正	3	
タイピング練習及び10分間測定	1	
実習問題「セミナー参加報告書」作成・チェック・修正	3	
タイピング練習及び10分間測定	1	
実習問題「出張報告書」作成・チェック・修正	3	
タイピング練習及び10分間測定	1	
合　計	30	

時間外学習について

タイピング練習をすること。また、実習問題の指摘箇所について確認を行い修正すること。

成績評価の方法及び評価割合について

実習問題、タイピング速度及び出席で評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が 90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満はD(不可)とする。

その他(科目と実務経験との関連性について)